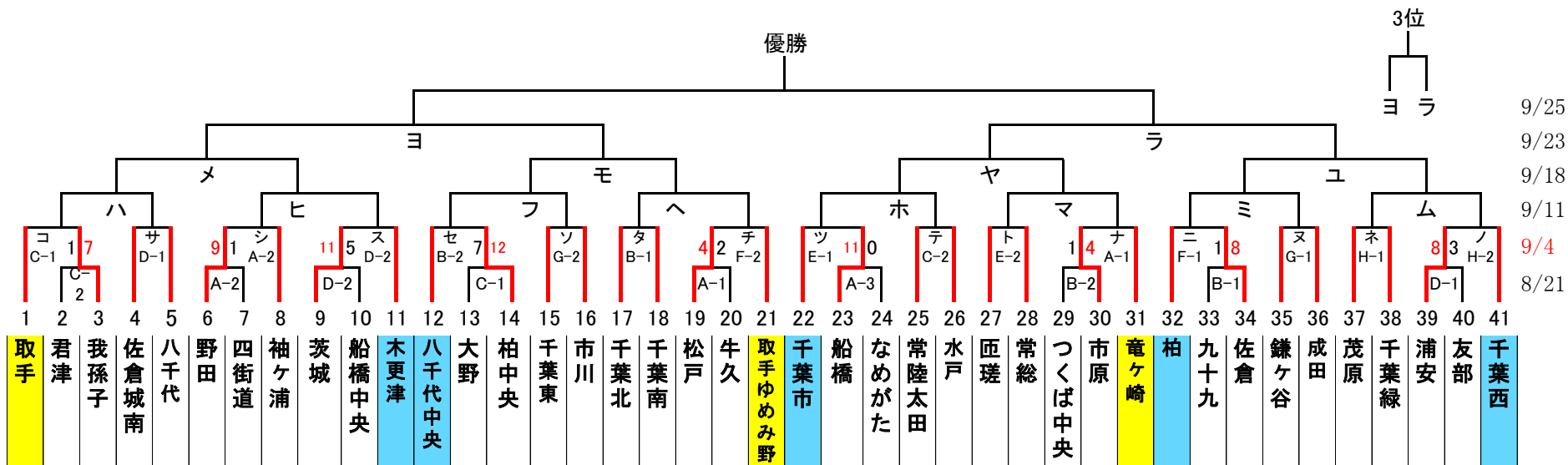


2022年 王道家杯東関東支部秋季大会 大会要綱

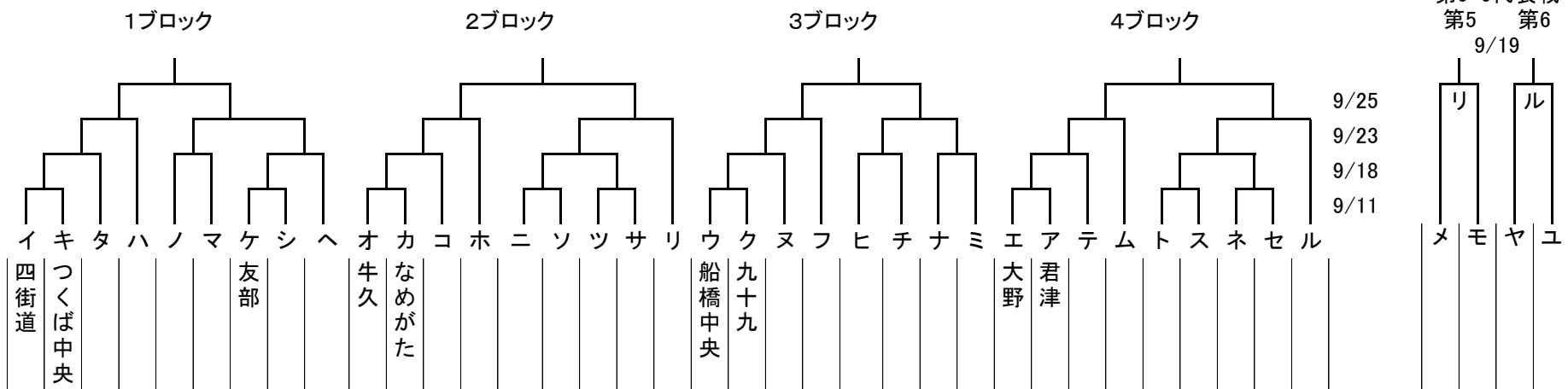
出場資格	東関東支部茨城ブロック15、千葉(西ブロック12、東ブロック8、南ブロック11チーム)31、計46チームに所属する複数登録チームを含めた登録選手(欠場:鹿島・土浦・守谷・香取・印西・古河)参加41チーム							
関東大会 選考方法	支部大会のトーナメントよりベスト4、敗者戦より6チームの、計10チームが秋季季関東大会に出場する							
日程 試合開始時刻	予定日:8月21日(日)、28日(日)、9月4日(日)、11日(日)、18日(日)、19日(日)、23日(祝日)、25日(日) ・・・8日間 予備日:中止になった翌週の土曜日及び日曜日 第一試合9:00、第二試合11:00 第三試合13:00を原則とする							
審判員	支部派遣審判員並びに専任常同審判							
大会規則	関東連盟大会規則による(同連盟HPにアップされている) ただし、決勝戦にも4回10点、5回7点コールドゲームを適用する(3回13点を取り入れる) 敗者戦も含めて、当初組み合わせ表の若番チームを1塁側とする 投球制限は、日本リトルシニア関東連盟ガイドラインによる(様式Aと無地の様式Bを本部に提出)							
コロナウイルス 感染拡大防止	大会出席者の検温実施並びに参加チームは消毒液(シート等)持参の事 ヘルメット等共用品は使用後その都度消毒を行う*父兄2名のベンチ入りを認め消毒対応(私服で) 試合終了後はベンチの消毒を行い退出する *別紙関東連盟通達により対応の事							
荒天時の対応	大雨等明らかに無理な場合を除き、天候不良の場合でも第1試合のチームは、基本的にグラウンド責任者に連絡することなく開始時間1時間前迄に集合すること。 グラウンド責任者は、天候不良の場合、天気予報、グラウンド状態を勘案し中島支部競技副部長と協議のうえ、極力早く中止又は待機を決定し該当チームに連絡する。 種々の都合により試合時間、グラウンド、審判員の配置等を変更することがある。							
表彰	優勝・準優勝・第3位・第4位							
大会競技委員	大会顧問:三木 慶造(連盟理事長)、小松崎 政次(連盟総務部長) 小林 喜一(支部長兼支部競技部長)090-4921-3645 中島 洋(支部競技副部長)090-2665-0938 櫻井 道徳(支部競技委員)090-4667-0983 青木 行一(支部競技委員)090-1045-2535 相葉 延市(支部競技委員)090-2633-3306 椿 和彦(支部競技委員)080-4142-0995 後藤 敦(支部競技委員)090-5206-1189 山本 久(支部競技委員)090-2646-6455 小島 慶明(支部競技委員)090-3008-9808 太田 忠夫(支部競技委員)090-1040-6165 大羽澤 一雅(支部競技委員)090-8877-1267 立松 弘通(競技員)090-4200-6781 粕谷 哲也(競技員)090-4616-9012 加瀬 文江(競技員)080-1096-5460 高橋 幸司(競技員)080-3350-7783 遠藤 正彦(競技員)090-1116-9023 津野 広昭(競技員)090-8879-5640 磯野 嘉一(競技員)090-1605-5546 後藤 敦(支部広報部長)090-5206-1189 椿 和彦(支部広報副部長)080-4142-0995 谷口 昌弘(支部審判部長)090-3479-7167 柴田 公一(支部副審判部長)090-4065-7297 飛田 泰宏(総務部長/茨城ブロック審判長)090-1504-2961 中村 新悟(東ブロック審判長)090-1116-4465 大川 茂昭(西ブロック審判長)090-4623-9573 川俣 滋彦(南ブロック審判長)090-5191-1909							
グラウンド 提供チーム	千葉ブロック				公営球場			
	チーム名	グラウンド責任者	携帯番号	駐車台数(マイクも含む)	チーム名	グラウンド責任者	携帯番号	駐車台数(マイクも含む)
	柏	立松事務局長	090-4200-6781	10台(土曜日5台)	TOKIWAスタジアム	小林事務局長	090-4921-3645	
	千葉北	山本事務局長	090-2646-6455	10台	山桑球場	鈴木事務局長	090-8771-8514	12台(大型×)
	木更津	粕谷事務局長	090-4616-9012	15台(大型×)	野田	上野事務局長		8台(大型×)
	君津	津野事務局長	090-8879-5640	20台				
	茂原	大羽澤事務局長	090-8877-1267	10台	茨城ブロック			
	成田	加瀬事務局長	080-1096-5460	15台	友部	高橋事務局長	080-3350-7783	20台
	佐倉	高橋事務局長	090-4054-4223	10台	取手	豊島事務局長	090-1611-0990	20台(大型×)
					竜ヶ崎	小林事務局長	090-4921-3645	15台
グラウンド提供チームにやっていただくこと ・グラウンド使用料、審判・役員弁当代の徴収、領収書発行 ・審判及び役員の弁当代(600円程度) ・グラウンド責任者は、試合経過を関東連盟のHPにアップする								
グラウンド 使用料 審判役員 弁当代等	グラウンド 使用料	各チームは、当日朝グラウンド使用料として1試合当たり2,500円を提供チームに支払う。 又、公営グラウンドの場合は3,000円を支払う						
	試合球	試合球は協会の公認契約スポーツメーカーの刻印が確認出来る硬式球とする。 試合開始前メンバー表(5枚)交換時に3球、試合中不足分はその都度抛出する。 試合後試合球は両チームに戻す。						
	ロージン	試合で使用するロージンバックはメンバー表交換時に確認し両チームで管理する。						
	役員及び 審判弁当代	各チームは役員及び派遣審判の分として購入金額(700円/人)を出場チームで均等に割った金額を弁当代として提供チームに支払う。						
	審判交通費	派遣審判並びに専任常同審判の交通費は各チームが、大会終了後支部事務局からの規約に基づく請求により支払うものとする						

2022年 王道家杯東関東支部秋季大会



茨1取手 茨2竜ヶ崎 茨3取手ゆめみ野
 千1千葉西 千2八千代中央 千3千葉市 千4木更津 千5柏

9/4 A:竜ヶ崎KK B:千葉北 C:取手 D:佐倉 E:山桑球場 F:柏 G:成田 H:茂原
 敗者復活戦



1回戦 8月21日 結果

グラウンド	第1試合		第2試合		第3試合				
松戸市営	松戸	4 - 2	牛久	野田	9 - 1	四街道	船橋	11 - 0	なめがた
佐倉	九十九	1 - 8	佐倉	つくば中央	1 - 4	市原	-		
柏	大野	7 - 12	柏中央	君津	1 - 7	我孫子	-		
友部	浦安	8 - 3	友部	茨城	11 - 5	船橋中央	-		

2回戦 8月28日 雨天順延

グラウンド	第1試合		第2試合		第3試合				
A ZAB'-ルパーク	茂原	-	千葉緑	浦安	-	千葉西	市原	-	竜ヶ崎
B 千葉北	千葉北	-	千葉南	八千代中央	-	柏中央	野田	-	袖ヶ浦
C 取手	取手	-	我孫子	常陸太田	-	水戸	-		
D 佐倉	佐倉城南	-	八千代	茨城	-	木更津	-		
E 山桑球場	千葉市	-	船橋	匝瑳	-	常総	-		
F 柏	柏	-	佐倉	松戸	-	取手ゆめみ野	-		
G 成田	鎌ヶ谷	-	成田	千葉東	-	市川	-		

2回戦 9月4日 予定

グラウンド	第1試合		第2試合		第3試合			
A 竜ヶ崎KK	市原	-	竜ヶ崎	野田	-	袖ヶ浦	-	
B 千葉北	千葉北	-	千葉南	八千代中央	-	柏中央	-	
C 取手	取手	-	我孫子	常陸太田	-	水戸	-	
D 佐倉	佐倉城南	-	八千代	茨城	-	木更津	-	
E 山桑球場	千葉市	-	船橋	匝瑳	-	常総	-	
F 柏	柏	-	佐倉	松戸	-	取手ゆめみ野	-	
G 成田	鎌ヶ谷	-	成田	千葉東	-	市川	-	
H 茂原	茂原	-	千葉緑	浦安	-	千葉西	-	

リトルシニアの投球数制限に関する統一ガイドライン

日本リトルシニア中学硬式野球協会

投手の投球数制限に関しては、次に掲げるリトルシニア独自のガイドラインに基づくものとする。

- ① 1日最大90球以内。 (投手 A～F)
- ② 連続する2日間で130球以内。 (投手 ABCE)
- ③ 3連投(連続する3日間)する場合は、1日目と2日目の投球数合計を90球以内とし、3日間の投球数合計を130球以内。
なお、4連投(連続する4日間)は禁止。 (投手 D・E)
- ④ 上記 ① ② ③の場合において、打席の途中で制限数に達した場合、当該打者の打席終了までは投球を認め、制限数を超過した投球は投球数にカウントしない。 (投手 A・D・E)
- ⑤ 大会中は1日90球投球後、翌日投球を休めば3日目は90球の投球を可能。 (投手 F)
- ⑥ 打者に対して投じた投球がボークとなった場合は、投球数にカウントする。また、12秒及び、20秒ルールに抵触して課せられたボールは投球数にカウントしない。
- ⑦ 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。
(例：2ボール・1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じていた3球は投球数にカウントする。)
- ⑧ 雨などで特別継続試合になった試合も投球数にカウントする。
- ⑨ 異なる大会であっても、連日投球する投手は、この統一ガイドラインに則った投球数制限で投球するようお願いします。

投手の投球数制限における投球可能数のケース

(投球数)

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	予備日	
投手 A	90	40		※ 90 (95)	※ 40 (42)		90	・・・ 上記 ①・②・④
投手 B		79	51		44	86		・・・ 上記 ①・②
投手 C			45	85		89	41	・・・ 上記 ①・②
投手 D	68	※ 22 (26)	※ 40 (42)		24	22	※ 84 (88)	・・・ 上記 ①・③・④
投手 E	82	第一試合 21		46	第一試合 25	※ 41 (46)		・・・ 上記 ①・②・③
		第二試合 27			第二試合 18			
投手 F	90		90		90		90	・・・ 上記 ①・⑤

※ 投手 A の第4日目・第5日目及び、投手 D の第2日目・第3日目・予備日、ならびに投手 E の第6日目の()外は投球可能数、()内は打席の途中で制限数に達し、当該打者の打席終了まで実際に投じた投球数を示す。

以上

投球数制限下での理事及び、審判員の試合前 / 試合中 / 試合終了後の流れ

日本リトルシニア中学硬式野球協会

1. 試合前におけるメンバー表、選手登録証等の監督からの受理（理事及び、審判員）

監督からメンバー表、選手登録証等を預かる際、大会1回戦及び、初戦のチームの監督に「投球数制限を適用」する旨を念のため伝える。
2回戦以降は、監督から投球数確認シートを預かった際に、理事及び、審判員は各投手の本日の投球可能数を確認しておく。

2. 試合前の攻守決定及び、メンバー表交換（理事及び、審判員）

2回戦以降は、投球数確認シートのコピーを対戦相手チームに渡し、各投手の投球可能数を開示する。
各イニングの表及び、裏が終了した時に投手の投球数をアナウンスすることを伝え、異議がある場合は速やかに球審に申し出てもらうことを監督にお願いし、投手が第一投を投じた後は異議を唱えることはできないことを伝える。
(特に、打者に対して投じた投球がボークとなった場合、公式記録の上では投球数にカウントしないため誤差が生じることとなる)

3. 試合中の投球数管理（理事及び、審判員）

投球数のカウントは間違えの無いような体制で行う。
放送係は各イニングの表及び、裏が終了した時に「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計で〇〇球です」とアナウンスを入れる。
監督から球審に異議の申し出があった場合は、控え審判員及び、記録員、ならびに理事に確認して、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

4. イニング途中での投手交代（理事及び、審判員）

投手交代時に放送係は選手交代のアナウンス後、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。
監督から球審に異議の申し出があった場合は、上記の3.と同様、正しい投球数を速やかに決定し解決を図る。

5. 投球可能数に達した時（理事及び、審判員、ならびに記録員）

投球可能数に達した場合、「〇〇投手は規定の投球数に達しましたので交代となります」とアナウンスを入れる。ただし、打席の途中で投球可能数に達した場合は、当該打者の打席が終了した時点でアナウンスを入れる。

6. 試合終了後（理事及び、審判員、ならびに記録員）

試合終了時もイニング終了時と同様に、「このイニングの〇〇投手の投球数は〇〇球で、累計〇〇球でした」とアナウンスを入れる。
投球数を記入済みの投球数確認シートの原本に球場責任審判員がサイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。
投球数確認シートの原本は監督に返却する。球数チェックシートの原本は、当日の責任審判員が保管する。

以上

球 数 メ モ

日本リトルシニア中学硬式野球協会 関東連盟

大会名： 2022秋季支部大会

チーム名： _____

試合日： _____ 年 _____ 月 _____ 日 (第 _____ 試合)

球場名： _____

< 記入例 >		※上段：投球数を正の字で記入 ※下段左：その回の投球数 ※下段右：累計の投球数											
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	投球可能数
1	関東 太郎	90 球 (92)	正正正 15 / 15	正正正丁 17 / 32	正正正正 20 / 52	正正正正 20 / 72	正正正正 20/90(92)	/	/	/	/	/	40球

注)五回、打席の途中で制限数の90球に達し、当該打者の打席終了まで投じた結果、累計の投球数が92球となった例。

※打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

【 記入欄 】													
背番号	投手名	投球数	一	二	三	四	五	六	七	TB-1	TB-2	TB-3	投球可能数
1		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
2		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
3		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
4		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
5		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
5		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
6		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球
7		球 ()	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	球

【本シートの運用方法】

各試合毎、球場責任理事(役員)、及び責任審判員、アナウンス(サブ)は投球数確認の為の補助簿としてこの様式を使用してください。

投球数確認シート

【本部提出用】(試合終了後チームで保管)

大会名: 2022秋季支部大会

チーム名 :

日本リトルシニア中学硬式野球協会

球場名																					
試合月日		/		/		/		/		/		/		/		/		/			
対戦相手																					
背番号	投手名	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	投球可否	投球可能数	投球数	
1		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
2		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
3		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
4		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
5		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
6		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
7		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
8		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
9		球	可・否	球	球	可・否		球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	可・否	球	球	
球場責任理事(役員) 確認サイン																					
球場責任審判員 確認サイン																					
監督 確認サイン																					

【本シートの運用方法】 注) 打席の途中で制限数に達し当該打者の打席終了まで投球した場合、制限数を()外、実際に投じた投球数を()内に記入する。

- ① 試合終了後、本シート(原本)に投球数を球場責任審判員が記入・サイン後、球場責任理事(役員)及び、監督へ確認を求め、サインを受ける。
 - ② 監督は、サインされた本シート(原本)を次の試合まで保管する。
 - ③ 監督は、次の試合開始前に本シート(原本)とコピー2部を大会本部へ提出する。
- 注) 連戦の場合は試合前の攻守決定時に投球数確認シートを相手チームに開示する。